

事業番号	07 05 01	事業改善シート（令和6年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	産業人材育成事業	部局	産業労働部	課・室	産業人材育成課				
		実施期間	S46 ～	E-mail	jinzai @ pref.nagano.lg.jp				

1 現状と課題

- ・将来の県内産業の担い手を確保するためには、早い段階から地域の産業や企業の魅力を伝え、長野県で働く魅力を実感してもらうための広域的なキャリア教育の取組が必要。
- ・県内では、社会人が働きながら主体的に学べる場が限られているほか、学び直しを促進するためには、企業側のリカレント・リスキリング教育に対する意識を高める必要。
- ・多様な働き方の進展や成長期待分野であるデジタル分野への労働移動を促進するためには、デジタル人材育成が急務。
- ・労働者の技能水準向上のため、技能検定制度及び認定職業訓練の浸透が必要。

2 事業目的

人生100年時代における職業人生の長期化や少子高齢化の本格化に伴う生産年齢人口の減少が進む中でも、持続的な県内経済・県内産業の発展を図るため、「学び」により一人ひとりが職業能力を高め、社会経済環境の変化に適応できる産業人材を育成するとともに、キャリア教育の推進により、将来の県内産業の担い手確保や女性・若者から選ばれる県づくりを目指す。

3 事業目的を達成するための取組

①産学官連携によるキャリア教育の推進

- ・子どもの頃から地域の産業や企業の魅力を伝えるため、高校生を対象とした県内IT企業へのインターンシップなど、小学生～高校生までのそれぞれのステージで職業体験の機会を提供。
- ・地域における産業や企業の魅力を子どもたちに伝える取組を推進するため、意識醸成を図るセミナーや地域ごとの検討を行うほか、県内で実施される地域産業展等への児童・生徒の見学、訪問活動を支援。

②デジタル分野をはじめとするリカレント・リスキリングの推進

- ・各種研修講座や職業訓練から就職に至る支援制度までの情報をワンストップで提供し、リカレント・リスキリングに対する意識を高めるため、社会人学びの総合ポータルサイトを運営。
- ・成長が期待されるIT分野での正社員就職や、支援対象者が希望する多様な働き方の実現をサポートするため、「デジチャレ信州事業」により、ITスキルを習得するための職業訓練やインターンシップの提供と再就職支援を一体的に実施し、求職者等を支援。
- ・企業のDX化を推進するため、企業DX推進人材育成講座事業により、県内中小企業の経営者・現場リーダー等を対象に、企業内のDX推進に向けたDX講座を実施。

③労働者の技能向上・職業能力開発を支える社会づくり

- ・一定の基準（訓練生数等）を満たす訓練を行う中小企業事業主等を支援するため、認定職業訓練助成事業により、運営費等を補助。
- ・労働者の技能を公証する国家検定制度（技能検定）を実施するため、技能検定実施事業により県職業能力開発協会に対し、検定実施に要する経費等を補助。

4 成果指標

（推移の凡例 ㄦ：改善 ㄨ：悪化 ➡：変化なし ー：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度	R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	県関与の職業・産業体験活動への児童・生徒の参加者数	人	-	-	-	2,624	-	3,970	未達成	各事業の定員数、参加者見込み数を基に目標値に設定。順次増加し、R9までに2倍を超える8,000人程度の参加者数を目標とする。
②-1	社会人学びの総合ポータルサイト閲覧者数	人	-	34,000	-	47,548	ㄦ	20,000	達成	R5見込みと同様に、閲覧者数20,000人を目標とする。
②-2	デジタル人材の育成人数	人	62	125	ㄦ	541	ㄦ	220	達成	2事業（企業DX推進人材育成講座事業・デジチャレ信州事業）でデジタルスキルを習得した者の数を目標値に設定。2事業の定員が合計220人であることから、育成人数220人を目標とする。
③-1	認定職業訓練修了者数	人	1,178	1,149	ㄨ	1,104	ㄨ	1,380	未達成	R4実績とR5見込値を比較した増加分とほぼ同数の増加を見込み目標値とする。
③-2	技能検定受検者数（全体）	人	4,800	5,204	ㄦ	5,653	ㄦ	4,900	達成	R4の実績とR5の見込値の平均を上回る4,900人を目標とする。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
2-1③	産業人材の育成・確保	県関与のリカレント(リスキリング)講座・訓練の受講者数(2023～2027年度の累計)	人		－	2023 (R5)	2,708	2024 (R6)	5,872	2027 (R9)	20,000
3-1②	デジタルの力を活用した便利で快適な暮らしの実現	県関与のデジタル分野の講座・訓練の受講者数(2023～2027年度の累計)(再掲)	人		－	2023 (R5)	2,090	2024 (R6)	4,566	2027 (R9)	9,000

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R6年度	0	253,954	0	253,954	100,832	237,418	4.0
R5年度	14,922	252,031	△ 6,400	260,553	94,670	251,075	4.0
R4年度	0	240,527	6,498	247,025	101,779	221,875	4.0

事業番号	07 05 01	事業改善シート（令和6年度実施事業分）			☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	産業人材育成事業		部局	産業労働部	課・室	産業人材育成課		

7 主な取組実績と成果

①産学官連携によるキャリア教育の推進

- ・将来を担う子どもたちに地域産業・企業の魅力を伝え、県内での就労を意識づけるため、小学生から高校生までを対象に、職業体験等の機会を提供する『「はたらく」を学ぶ信州職業体験フィールド展開事業』を実施。
- ・本事業において、小学生を対象として、オンラインや現場で実際に仕事を体験してもらう「ジョブキッズしんしゅう2024」においては、参加者アンケートから、実際に仕事を体験することの楽しさを実感した小学生が多くみられ、保護者からも好評を得ることができた。
- ・中学生等を対象に、ものづくり産業の魅力を伝えるため、中学校延べ13校、特別支援学校延べ5校に、信州ものづくりマイスターや企業経営者等を派遣し、講話や体験講座を開催する「地域と未来をつなぐゼミ」を実施。延べ79講座を開催し、受講後アンケートでは、参加した生徒、教師から好評を得た。
- ・R6年度は新たに「高校生デジタルインターンシップ事業」を実施し、成長期待分野である県内IT企業等でのインターンシップを実施。県内4地域で実施し、17名が参加した。また、県内で開催される産業イベントへの子どもたちの参加を促進するため、見学に活用するバス等の借上げ料に係る補助を実施。2団体への支援を行い、子どもたちが地域産業・企業の魅力に触れる機会の拡充に努めた。

②デジタル分野をはじめとするリカレント・リスキリングの推進

- ・R6年度のキャリアアップステーションNAGANO（ポータルサイト）の登録数は、講座・研修情報3,204件、技能講習1,939件、支援情報61件、サイト閲覧者47,548人であった。前年度の視聴数約34,000人から大幅に視聴数が増加しており、県民へのリカレント・リスキリング情報の提供に貢献している。また企業向けにリカレント・リスキリングの意識を高めるためのセミナー（県主催で2回開催し72人参加、国主催への後援1回）も実施した。
- ・「デジチャレ信州事業」では求職者等を対象に、IT業界で就職に必要な知識・スキルの習得支援と、再就職支援（職業紹介、マッチング）を一体的に実施。参加者131名のうち 46名が就業決定することができた。
- ・「企業DX推進人材育成講座事業」では、オンラインによるDX推進講座およびその続きとなるDX推進フォローアップ講座を計6回開催し、のべ94名が受講した。また、講座のダイジェスト動画を県のポータルサイト「キャリアアップステーションNAGANO」で公開し、R7.3月末時点で316名が視聴した。

③労働者の技能向上・職業能力開発を支える社会づくり

- ・技能検定実施事業により、労働者の技能を公証する国家検定制度（技能検定）を実施するため、県職業能力開発協会に対し、検定実施に要する経費等を補助した。
- ・民間における職業訓練の取組みを促進し、その内容の充実を図るため、法令の基準に適合する職業訓練を認定するとともに、そのうち中小企業等が実施する職業訓練に対して運営費等の助成を行った。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	県関与の職業・産業体験活動への児童・生徒の参加者数	R5年度推移	-	R6年度推移	-	達成状況	未達成
「地域と未来をつなぐゼミ」については、目標の75講座を上回る79講座を実施。「地域産業イベント見学促進事業」については、本事業の対象として想定していた生徒・学校が、借上げ料のかからない市町村所有のバスを利用したこと等の理由により、参加人数が目標値を下回った。							
指標 ②-1	社会人学びの総合ポータルサイト閲覧者数	R5年度推移	-	R6年度推移	↗	達成状況	達成
登録講座数は堅調に推移した。講座情報を常に更新しつつ、リスクリングに関する多様な視点での専門家コラムを3本掲載（GX、管理者のリスクリング、エッセンシャルワーカーのリスクリング）し、企業DX推進人材育成講座のダイジェスト動画も掲載するなど、サイト内のコンテンツを充実させたことにより、ポータルサイトの閲覧者数は、前年度実績を大きく上回る47,548人となった。							
指標 ②-2	デジタル人材の育成人数	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
企業DX推進人材育成講座については、計6回の講座で94名の受講者が取り組んだ。また、講座の座学パートを中心としたダイジェスト動画をポータルサイトで公開し、視聴回数も316回に上った。これらの取組みを通じて幅広く県民に企業DXについて学ぶ機会を提供した。 デジチャレ信州事業については、訓練の実施に加え、ITパスポート試験の受験費の補助や週1回の個別面談による学習のフォローを実施したところ、訓練を修了し、デジタルスキルを習得した者の数が目標値を上回った。							
指標 ③-1	認定職業訓練修了者数	R5年度推移	↘	R6年度推移	↘	達成状況	未達成
各認定職業訓練校で、これまでの広報活動に加え、学校への出張講座の展開やweb広告等の新しい広報活動を積極的に行っているが、訓練生数の減少トレンドをカバーするに至らず、目標値を下回った。							
指標 ③-2	技能検定受検者数（全体）	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
技能検定受検者は、定期試験・随時試験ともに前年度より増加し、目標の4,900人を上回る5,653人となった。特に随時試験が増加しており、これは技能実習生の在留資格の延長条件として、基礎級や随時3級の合格が課されているためと考えられる。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・「はたらく」を学ぶ信州職業体験フィールド展開事業では、小学校から高校生までの各ステージにおいて職業体験等の機会提供を実施してきたが、取組の一層の充実には、企業・学校双方の負担軽減や受入企業情報の不足等の課題があり、一定の支援が必要である。
- ・企業DX推進人材育成講座事業では、DX推進をリードする人材を育成するための直接的な支援を展開してきたが、企業において、リスキリングの取組に対する優先度が低く、何から取組めば良いか分からないという声もあることから、企業がリスキリングに取り組みやすい環境づくりに向けた支援が必要である。
- ・デジチャレ信州事業では、在職者や求職者への支援により、多くの方の就労に繋がった。一方で、企業側と求職者との間で希望する雇用形態等のミスマッチが起こる場合もあることから、起業・フリーランス等の働き方も視野に入れた支援を行っていく必要がある。

(2) 事業改善の方策

- ・子どもたちに地域産業・企業の魅力を伝える取組の一層の充実に向けて、新たに企業情報や県内のキャリア教育に関する情報を発信するポータルサイトの構築や、企業・学校をつなぐ職業体験支援コーディネーターの配置等を実施し、職業体験等の取組への支援を推進していく。
- ・企業がリスキリングに取り組みやすい環境づくりを推進するため、経営指導員との連携による企業支援や民間コンサルタントによる伴走支援等を実施し、企業主体の取組への支援を充実していく。
- ・デジチャレ信州事業については、育児や介護等でフルタイムの仕事ができない等の事情で、働き方が制約される場合がある女性に対し、着実に就労につなげるために丁寧な支援を行っていく。デジタル分野はテレワークなど柔軟な働き方がしやすい分野であるため、デジタルスキル習得及び就職支援を重点的に行う。さらに、フリーランスとしての仕事の見つけ方に関する講座実施等の起業支援を行い、事業参加者の就職・起業の促進を図っていく。

事業番号	07 05 01	細事業一覧（令和 6 年度実施事業分）			□当初要求	□当初予算案	□補正予算案	■点検
事業名	産業人材育成事業			部局	産業労働部	課・室	産業人材育成課	

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	産業人材育成事業費		87,514 千円	115,025 千円	107,037 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	「はたらく」を学ぶ信州職業体験フィールド展開事業（児童・生徒に対する職業体験機会の提供）	負担金 委託	・子どもたちに地域産業や企業の魅力を伝えるため、「ジョブキッズしんしゅう」事業（小学生対象）や「地域と未来をつなぐゼミ事業」（中学生等対象）により職業体験機会の提供や企業の魅力等を紹介する講座を開催 ・将来の地元IT企業を支える人材を確保するため、高校生を対象に、県内IT企業へのデジタルインターンシップを実施 職業体験アトラクション提供企業数（ジョブキッズしんしゅう）：39企業・団体 講座開催校数（地域と未来をつなぐゼミ）：18校 デジタルインターンシップ受入企業数：6 企業		
2	「はたらく」を学ぶ信州職業体験フィールド展開事業（地域における取組の推進）	直接 委託 補助金	県内で実施される広域レベルの地域産業展等への児童・生徒の見学、訪問に活用するバス等の借上げ料を補助 補助団体数：2団体		
3	社会人学びの総合ポータルサイトの運営、総合相談窓口の設置	直接 委託	・社会人学びの総合ポータルサイトの研修情報、動画、コラム記事の追加及び広報 ・リスケリング関連のオンラインセミナーを 2 回実施 ・企業ニーズ調査 サイト視聴数：47,548人、研修新規掲載数：3,204件、セミナー参加者数：72名		
4	デジチャレ信州事業	委託	求職者等を対象に、ITスキル習得のためのオンライン・インターンシップ型職業訓練と再就職支援（職業紹介、マッチング）を一体的に行い、IT業界での正社員就職や支援対象者が希望する多様な働き方を支援 実施コース種数：3 種		
5	企業 D X 推進人材育成講座事業	委託	県内中小企業の経営者・現場リーダー等を対象に、企業内の D X 推進に向けた D X 講座を実施 講座開催回数：6 回（94名参加）、講座ダイジェスト動画視聴数：316回		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
2	認定職業訓練助成事業費		57,934 千円	60,045 千円	59,571 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	認定職業訓練助成事業	補助金	認定職業能力開発校の運営費・設備整備に要する経費に対する補助（国 1 / 3、県 1 / 3） 補助対象団体数：18団体		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
3	技能検定実施事業費		76,427 千円	76,005 千円	70,810 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	技能向上対策費補助金	補助金	・長野県職業能力開発協会に対する補助 ・若者の技能検定受検手数料の減免 ・補助対象団体数：1団体 ・若者の技能検定受検手数料の減免者数：500人		
2	技能検定の実施	直接	技能検定合格証書等の作成・交付等 R6技能検定（定期）実施回数：2回（前期、後期）		